

文化・芸術



「海」

1932年 油彩、キャンバス
37・8センチ×49・8センチ
(公益社団法人糖業協会蔵)

藤島武二 (1867~1943年)

この展覧会は、5章 なります。その結果、で構成しています。今 いくつか「行ってみたい」回から、第1章「自然」という現実味がある風景をながめる「海と山」 景画が好まれるようになりました。一方で効から順に紹介していき 率主義とスピードが求

ます。日本において、山水 められる都市生活のな画とは異なった現実の 風を写生した風景画は、いつとときの憩いというジャンルが登場 与えるイメージとしてするのは、明治以降の 好まれていたのではありません。そうした時

代の流れの中で、19 藤島武二、梅原龍三 31年に、日本を代表 郎、中川一政、曾宮一 する自然の風景地の保 念ら、当時の大家、人 護と利用の促進を目的 気の中堅といわれた画 とした国立公園法が施 家たちのそれぞれのス 行されました。これを タイルで描かれた風景 きっかけに人々の関心 画をご覧ください。

(田中)

〈名画の扉〉

大川美術館企画展「松本竣介《街》と昭和モダン展—糖業協会と大川美術館のコレクションによる」から

さがむけられるように